

県立倉吉総合産業高等学校第一グラウンドバックネット補修及び塗装工事

目次		
図面番号	図面名称	
A-01	表紙・目次	
A-02	特記仕様書(1)	
A-03	特記仕様書(2)	
A-04	付近見取図・配置図(全体)・面積表	S=1/1000
A-05	第一グラウンドバックネット図(改修前)	S=1/50・S=1/10
A-06	第一グラウンドバックネット図(改修後)	S=1/50・S=1/10



建築改修工事仕様書

I. 工 事 概 要

1. 工事場所 倉吉市小田
2. 敷地面積 70,667.00 m²
3. 地域地区 都市計画地域 (○内・外) 市街化調整区域 (・内・外)
用途地域 (無指定) 防火地域 ()

[illegible]

Ⅱ. 建築改修工事仕様

- ## 共通仕様
- (1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。ただし、改修標準仕様書に規定されている項目以外は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
- (2) 調査員は、建築基準法に基づく完了検査（中間検査含む）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用いるとする。
- (3) 電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
- ## 2. 特記仕様
- (1) 項目は番号に○印のついたものを適用する。
- (2) 特記事項は○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
○印と※印のついた場合は共に適用する。
- (3) 項目に記載〔 〕 の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（ ） の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (4) 図印は、「国等による環境物品等の調達への推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和7年1月28日変更閣議決定）」（環境省のホームページがダウンロード可能）による。
- (5) 関係法令（条例を含む）の改正等により、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合にも、その対応等について、監理職員と協議を行うものとする。
- (6) 材料及び製造所等の記載は順不同である。

章	項 目	特 記 事 項
① 一般共通事項	① 適用基準等	※ 建築工事標準詳細図（令和４年版） 国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁整備課監修（以下「標準詳細図」という） ※ 建築改修工事監理指針（令和７年版） 国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁整備課監修 ※ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（令和５年版） 国土交通省大臣官庁官庁官庁整備課監修 ・ 建築物解体工事標準仕様書（令和４年版） 国土交通省大臣官庁官庁官庁整備課監修 ・ 建築工事監理指針（令和７年版） 国土交通省大臣官庁官庁官庁整備課監修
	② 官公庁その他への手続 [1. 1. 3]	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査に必要な資機材、労務等を提供する。
	③ 電気保安技術者 [1. 3. 3]	事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、電気主任技術者の業務を補佐する監督職員の指示に従い、当該現場における電気工作物の保安業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第１編第１章第３節１．３．２に定めるものとし、一般用電気工作物に係る工事に際しても、事業用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。（施設契約電力： kW)
	④ 工事安全計画書 [1. 3. 7]	建築工事安全施工技術指針及び建設公災災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。
	⑤ 発生処理の処理等 [1. 3. 12]	・ 引渡しを要するもの（ ） 特別管理産業廃棄物（ ） 処理方法（ ） ・ 現場において再利用を図るもの（ ） ・ 再生資源化を図るもの ・ コンクリート塊 ・ アスファルトコンクリート塊 ・ 建設発生木材 ・ ＰＣＢ含有シーリング材の調査・処理 ・ 第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の必要を判定する。 採取箇所 ※図示 採取箇所数 計 箇所 ・ 第二次判定 専門分析機関にてＰＣＢ含有量の分析を行う。 分析価値 計 箇所 ・ 除去処理工事 除去範囲 ※図示 ・ せつこうボードの処理 石綿含有せつこうボード 改修特記仕様書第９章による ・ ひ素・カドミウム含有せつこうボード ・ 製造業者回収委託 ・ 埋立処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称・所在地（ ） ・ 石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせつこうボード ・ 再資源化（再資源化施設） ・ 最終処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称・所在地（ ）
	⑥ 環境への配慮 [1. 4. 1]	化学物質を散放させる建築材料等 １）本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上げ塗材は、アセトアルデヒド及びステレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジエーテル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難燃性可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びステレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ２）ホルムアルデヒド放散量の区分において、規制対象外とは次の①又は②に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第20条の第7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外材料

⑦ 材料の品質
[1. 4. 2]

⑧ 石綿含有建材の調査
[1. 5. 1]

②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料	
3) ホルムアルデヒド放散量の区分において、第三種とは次の①又は②に該当する材料を指す。	
① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料	
② 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料	
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項（資材（材料及び資材を含む）の梱包及び容器は、可能に限り簡易であって、再生利用の容易及び廃棄時の負担軽減に配慮されていること。）に留意する	
材料・機材等の品質及び性能	
1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能有するものとする。	
2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承認を受ける。	
3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。	
4) 本工事に使用する材料のうち、5) に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書等の写し）を監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りではない。	
① 品質及び性能に関する試験データが整備されている。	
2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われている。	
③ 安定的な供給が可能である。	
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得している。	
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性がある。	
⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられている。	
5) 製造業者等に関する資料の提出を定める材料	
床型枠用鋼製デッキプレート	現場発泡断熱材
鉄骨柱下無収縮モルタル	フリーアクセスフロア
無収縮グラウト材	可動間仕切
乾式保溫材	移動間仕切
既調合モルタル	トイレブース
ルーフドレン	煙突用成形ライニング材
吸水調整材	天井点検口
鉄前頭	床点検口
クローザ類	グレーチング
自動扉機構	屋上緑化システム
自閉式吊り引戸機構	トップライト
重量シャッター	ポリウレタメントルタル
軽量シャッター	既調合自他材
オーバーヘッドドア	鉄鉄製ふた
防水剤	
調査	
※石綿含有建材の事前調査	
工事着工に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う	
賃料資料（ ）	
・分析による石綿含有建材の調査	
分析対象	
アクリノライト、アモサイト、アンソファイト、クリソタイル、クロシドライト、	
トレモライト	
分析方法	
材料名	分析方法（定性）
	JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2
	分析方法（定量）
	JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
・ 箇所	・ 箇所
・ 箇所	・ 箇所
・ 箇所	・ 箇所
材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと	
サンプル数 1箇所あたり3サンプル	
採取箇所 ・ 図示	
調査範囲 ※外壁（庇、笠木等）・屋根 ・図示	
調査方法 ※ステーションローによる打診及び目視 ・図示	
外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う	
屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う。	
また、その報告書は、調査結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に2部提出する（必要に応じて写真等を送付する。）	
補修方法 ※ 図示	
下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う	
（技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者）	
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用する	
工事項目	技能検定職種
仮設工事	技能検定職種
防水改修工事	防水施工
	○ とび作業
	・ アスファルト防水工事作業
	・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
	・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業
	・ 合成ゴムシート防水工事作業
	・ 塩化ビニルシート防水工事作業
	・ セメント系防水工事作業
	・ シーリング防水工事作業
	・ 改質アスファルトシートーーチ工法
	・ 防水工事作業
	・ F R P防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工
	・ 樹脂接着剤注入工事作業
	左官
	・ 左官作業
	・ タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工
	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工
	・ ガラス工事作業
	自動ドア施工
	・ 自動ドア施工作業
	建具製作
	・ 木製建具製作作業
	ガラス用フィルム施工
	・ 建築フィルム工事
内装改修工事	建築大工
	・ 大工工事作業
	建築板金
	・ 内外装板金作業
	内装仕上施工
	・ 鋼製下地工事作業
	・ プラスチック系床仕上工事作業
	・ カーペット系床仕上工事
	（作業を含む）
	・ ボード仕上工事作業
	・ 壁装作業
	左官
	・ 左官作業
	・ タイル張り作業

[illegible][illegible]⑬ 完成写真

④ 完成時の提出
[1.9.1、2]

15 設備工事との取り扱い

16 撤去部分

17 | 適用区分

塗装改修工事	塗装	○ 建築塗装作業
耐震改修工事	とび	・ とび作業
	鉄筋施工	・ 鉄筋組立作業
	型枠施工	・ 型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業
	鉄工	・ 構造物鉄工作業
環境配慮改修工事	配管	・ 建築配管作業
	路面表示施工	・ 溶解ペイントマーカ―工事作業
		・ 加熱ペイントマシ―マーカ―工事作業
	造園	・ 造園工事作業

《技能士名札参考図》

5.5 mm

技能士

職 種 建築大工

級 別 1級

氏 名 ○山○夫

血液型 ○型

勤務先 ○○工務店

自 宅 鳥取市

発行 ○○○○○○○○

技能士の職階により色を変えることも可

技能士の性別

技能士の職の別

技能士の本人の住所

名札の発行元

9.0 mm

1) 測定対象室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。
・ パバククロロベンゼンを追加して分析を行う

測定対象室 ()

2) パバク型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う。

① 30分間換気

測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開け、30分間換気する。

② 5時間閉鎖

①の後、測定対象室すべての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。

③測定

イ ②の状態のままで測定する。

ロ 測定時間は、原則として24時間とする。ただし、工程等の都合により、24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間帯の中央となるよう、10時30分～18時30分までの時間帯で測定する。

ハ 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。

④分析

測定対象化学物質を採取したパバク型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。

⑤その他

監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受ける。

下記のものを監督職員に提出する。

区 分	分類	撮影箇所	部数	備考
※ 工事記録写真	カラー	各工種の工程毎	1部	
※ 完成写真	カラー	・ 内部 箇所	2部	
		○ 外部 箇所	2部	協議による
・	カラー	・ 内部 箇所	2部	
		・ 外部 箇所	2部	
パネル	カラー	・ 四切 箇所	2部	
		・ 半切 箇所		
		・ 全紙 箇所		

電子データ又はネガの提出【工事記録写真】 (※ 要 ・ 不要)

電子データ又はネガの提出【完成写真】 (※ 要 ・ 不要)

下記のものを監督職員に提出する

※ CADデータ 1 部

※ 原図の大型コピー（白焼）の2つ折製本 2 部

※ 縮小版2つ折製本（A4版） 2 部

完成図の種類及び内容（改修前後の状態が分かるように整備する）

○ 案内図・配置図： 配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む

○ 改修概要図： 改修概要、部位等を表示する

○ 平面図： 室名、耐震壁（防火壁）、避難施設等を表示する

○ 立面図： 外壁仕上、補修範囲等を表示する

○ 断面図： 階高、天井高等を表示する

・ 仕上表： 屋外、屋内（各階）の仕上表を表示する

・ 構造図： 柱、構造躯体等を表示する

・ その他： ()

※ 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼付ける

設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

設備工事との取り合い	建 築	電 気	機 械
・ コンクリート壁、床、梁貫通部	補強 開口	※ ※	※ ※
・ 鉄骨造の開口及び補強	※	※	※
・ 照明器具・幹線等の吊りボルト	※	※	※
・ 軽量鉄骨壁のボックス取付下地	※	※	※
・ 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの	仮枠	※	※
・ 仮枠及び埋込部分の補強	補強	※	※
・ OAFフロア・フリースクエアフロアの切込み及び補強	※	※	※
・ 埋込型機器取付用の天井	切込	※	※
・ 壁の切込加工、下地の補強	補強	※	※
・ 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及び	※	※	※
・ ドアクロザ、フロアヒンジ	※	※	※
・ 電気室、自家発電室などの基礎及びビット（蓋を含む）	※	※	※
・ テレビアンテナ	基礎 アンカーボルト	※ ※	※ ※
・ 天井点検口	※	※	※
・ 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	※ ※	※ ※

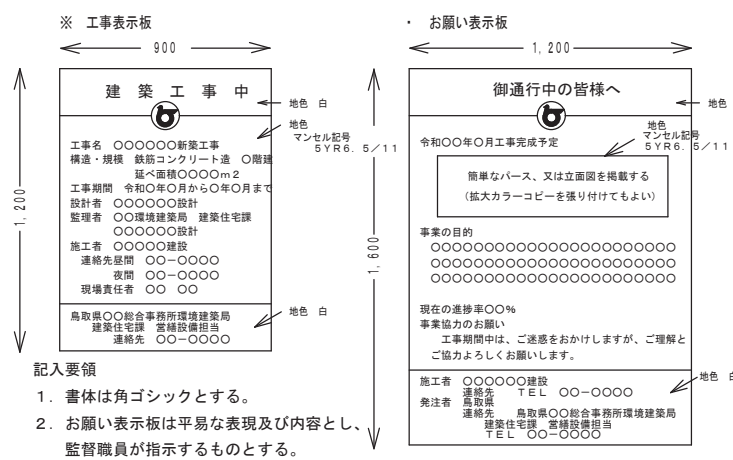
コンクリート、モルタル等の撤去部分の項目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。
ダイヤモンドカッター切り深さ（※30mm程度）

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

基準風速 $V_0 = \text{m/s}$

地表面粗度区分 I II III IV

積雪区分 平成12年5月31日建設省告示第1455号 別表 ()

	9	保全に関する資料 [1. 9. 3]	下記のものをA4版ファイルに製本して監査職員に提出する。 ※ 主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表 ※ 保証書 ※ 官公署届出書類（保守に必要とするもの） ※ 建築物の保守に関する説明書、指導案内書 ・
	10	火災保険等	工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補正するため火災保険等に加する。 （保険の加入期間は、工事完成引き渡しまで（概ね工期+21日）とする。）
	20	環境配慮	鳥取県公共事業環境配慮指針 ※ 対象工事 ・ 非対象工事
	21	建設リサイクル法	※ 対象工事 ・ 非対象工事
	22	鳥取県福祉の まちづくり条例	※ 対象工事 ・ 非対象工事
	23	景観形成条例	※ 対象工事 ・ 非対象工事
	24	建築物省エネ法	※ 対象工事 ・ 非対象工事
2	仮設工事	① 騒音・粉じん等の対策 [2. 1. 3] ② 足場その他 [2. 2. 1] [2. 2. 2. 1] ③ 既存部分の養生 [2. 3. 1] 4 仮設間仕切り [2. 3. 2] 5 監督職員事務所 [2. 4. 1] ⑥ 表示板	騒音・粉じんの対策 ・ 防音パネル ・ 防音シート 防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲 ・ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の（1）手すり設置方式又は（2）手すり先行専用方式により行う。 外部足場 ・ 設置する（範囲 ※工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない 防護シート ・ 設置する（範囲 ※工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない 内部足場 ・ 設置する（※卸立、足場板等 ・ ） ・ 設置しない 材料、搬出材等の運搬方法 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 C種：利用可能なエレベーター（ ） D種：利用可能な階段（ ） 養生方法等 ・ 既存部分の養生方法 ※ビニルシート、合板等による ・ 既存家具、既存設備等の養生方法 ※ビニルシート等 ・ ・ 既存ブラインド、カーテン等の養生方法 ※ビニルシート等（取外し再取付けを行う） ・ ・ 保管場所 ※構内既存施設内 ・ ・ 固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動 ※行う（図示） ・ 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれがある場合は養生を行う。また、万一損傷を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・ 図示 仮設間仕切りの種別と材質等 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示 A、B種の仕上げ材 ※石こうボード（DB-R 厚さ9.5mm） ・ 合板（普通合板 厚さ9mm） A、B種の片面への塗装等 ・ 行う ※行わない A種のガラスウール等の充填材 ※ 行う（JIS A 6301ガラスウール吸音材 2号32K 厚50mm） ・ 行わない 仮設扉の種別 ※木製（合板張り程度） ・ ※ 設ける m程度 ・ 設けない 現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示事項による。 ・ 既存建物内の一部を使用する（場所 ） ・ 構内に新設する 規模（ m） ※ 工事表示板 ・ お願い表示板  記入要領 1. 書体は角ゴシックとする。 2. お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。 7 工事用水 構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる（ ※ 有償 ・ 無償 ） 8 工事用電力 構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる（ ※ 有償 ・ 無償 ） 9 工事用仮設物 構内既存の施設 ・ 利用できない ・ 利用できる 10 工事現場の イメージアップ
3	防水改修工事	1 降雨時に対する 養生方法 [3. 1. 3] 2 既存防水層の処理 [3. 1. 4] [3. 2. 3. 4. 6]	※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)～(9)による。 ・ 既存保護層の撤去 ・ 行う（範囲 ・ 図示 ・ ） ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う（範囲 ・ 図示 ・ ） ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装の除去 ・ 行う（ ・ M4S ・ M4SI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X） ・ 行わない 改修用ドレン ・ 設ける（ ・ POAS ・ POASI ・ POD ・ PODI ・ POS ・ POSI ・ POX） ・ 設けない

鳥取県
令和8年
中部環境局
局

Project		Designed by		D	C	NO
県立倉吉総合産業高等学校第一グラウンドバックネット補修及び塗装工事		(有) エイディエム設計研究室				A-02
Title		〒682-0814 一級建築士 市村幹男 登録番号 第202784号				
特記仕様書 (1)		鳥取県倉吉市米田町877-1 TEL 0858-22-7717 FAX 0858-23-5315				

⑦
塗装改修工事

①
材料
[7. 1. 3]

②
下地調整
素地ごしらえ
[7. 2. 1～7]

③
錆止め塗料塗り
[7. 4. 2. 3]

④
仕上げ塗料塗り
[7. 5. 2～7. 12. 2]

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする（ ）

塗替え種別がR B種の場合の既存塗膜の除去範囲
※劣化部分は除去し、活膜部分は残す
下地調整、素地ごしらえ

下地面の種別		塗替え	新規	ひび割れ部の補修
		下地調整の種別		—
木部	不透明塗料塗りの場合	R B種		—
	透明塗料塗りの場合			—
鉄鋼面		○ R A種		—
				—
亜鉛めっき面（鋼製建具等以外）		R B種		—
亜鉛めっき面（鋼製建具等）		R B種		—
モルタル面、せっこうプラスター面		R B種		・行う
コンクリート面、A L Cパネル面（D P以外）		R B種		・行う
押出成形セメント板面（D P）		・ R A種 ・ R B種 ・ R C種	・ A種 ・ B種	・行う
コンクリート面（D P）		・ R B種 ・ R C種	※ A種	・行う
せっこうボード面、その他ボード面		※ R B種	・ A種 ・ B種	—

錆止め塗料塗りの種別

塗装面		塗料の種別	工程の種別		
鉄鋼面	S O P	新規見え掛り	・ A s種	・ A種	
		新規見え隠れ	・ A s種	・ B種	
		塗替え	・ A s種	・ C種	
	E P－G	新規見え掛り	・ A s種 ※ B s種	・ A種	
		新規見え隠れ	・ A s種 ※ B s種	・ B種	
		塗替え	・ A s種 ※ B s種	・ C種	
	D P	新規	7. 4. 2 (1) (f) (a)	・ A種	
		塗替え	7. 4. 2 (1) (f) (b) ○錆止め1回塗り		
	亜鉛めっき鋼面	S O P	新規鋼製建具等	※ A z種 ・ B z種	・ A種
			新規その他	※ B z種	・ B種
			塗替え	※ A z種 ・ B z種	・ C種
		E P－G	新規鋼製建具等	・ C z種	・ A種
新規その他			・ C z種	・ B種	
塗替え			・ C z種	・ C種	
D P		新規その他	・ B z種	—	
		塗替え	・ B z種	—	

塗装の種類		塗装面	工程	
			塗替え	新規
・合成樹脂調合ペイント塗り（S O P） 塗料の種別 ※ 1 種 ・ 2 種	屋外木部	※ B 種	・	※ A 種
	屋内木部	※ B 種	・	※ B 種
	鉄鋼面	※ B 種	・	・ A 種 ※ B 種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※ B 種	・	
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※ A 種	・	※ B 種
	・クリアラッカー塗り（C L）	木部	・ A 種 ※ B 種	・ A 種 ※ B 種
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り（N A D）	屋内の2つ以上 ・モルタル面	・ A 種 ※ B 種	・ A 種 ※ B 種	
○耐候性塗料塗り（D P） 上塗り等級 ○1級 ・2級 ・3級	コンクリート面 及び押出成形セメント板面	・ A－1 種 ・ B－1 種 ・ C－1 種	・ A－1 種 ・ B－1 種 ・ C－1 種	
・つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（E P－G）	屋外 ○鉄鋼面（外部鉄鋼面）			
	屋内木部	※ B 種	・	※ A 種
	屋内鉄鋼面	※ B 種	・	・ A 種 ※ B 種
	屋内亜鉛めっき面	※ A 種	・	※ A 種 ・ B 種
	コンクリート面	※ B 種	・	・ A 種 ※ B 種
	モルタル面	※ B 種	・	・ A 種 ・ B 種
	せっこうプラスター面	※ B 種	・	・ A 種 ・ B 種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（E P）	せっこうボード面	※ B 種	・	・ A 種 ・ B 種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（U C）		・ A 種 ※ B 種	・ A 種 ※ B 種	
・ステイン塗り		・ヒグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り（O S）		
・木材保護塗料塗り（W P）		・ A 種 ※ B 種	・ A 種 ※ B 種	
つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしき止め ※改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする 合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしき止め ※改修標準仕様書表7. 10. 1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする ・高日射反射塗料塗り [G] 下地調整（改修標準仕様書表7. 2. 2） ・ R A 種 ※ R B 種 ・ R C 種				
工程	塗料その他			塗付け量
	規格番号	規格名称	種類	等級
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・1級 ・2級 ・3級
塗料製造所の仕様による				
クリアラッカー塗り A 種の工程2 着色 ・適用しない ・適用する（着色剤： ・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤） ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1 の着色 ・適用しない ・適用する（着色剤： ・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤） オイルステイン塗りの工程等				

Project 県立倉吉総合産業高等学校第一グラウンドバックネット補修及び塗装工事

Title 特記仕様書（2）

Designed by

（有）エイディエム設計研究室
一級建築士 市村幹男 登録番号 第202784号
〒682-0814
鳥取県倉吉市米田町877-1
TEL 0858-22-7717 FAX 0858-23-5315

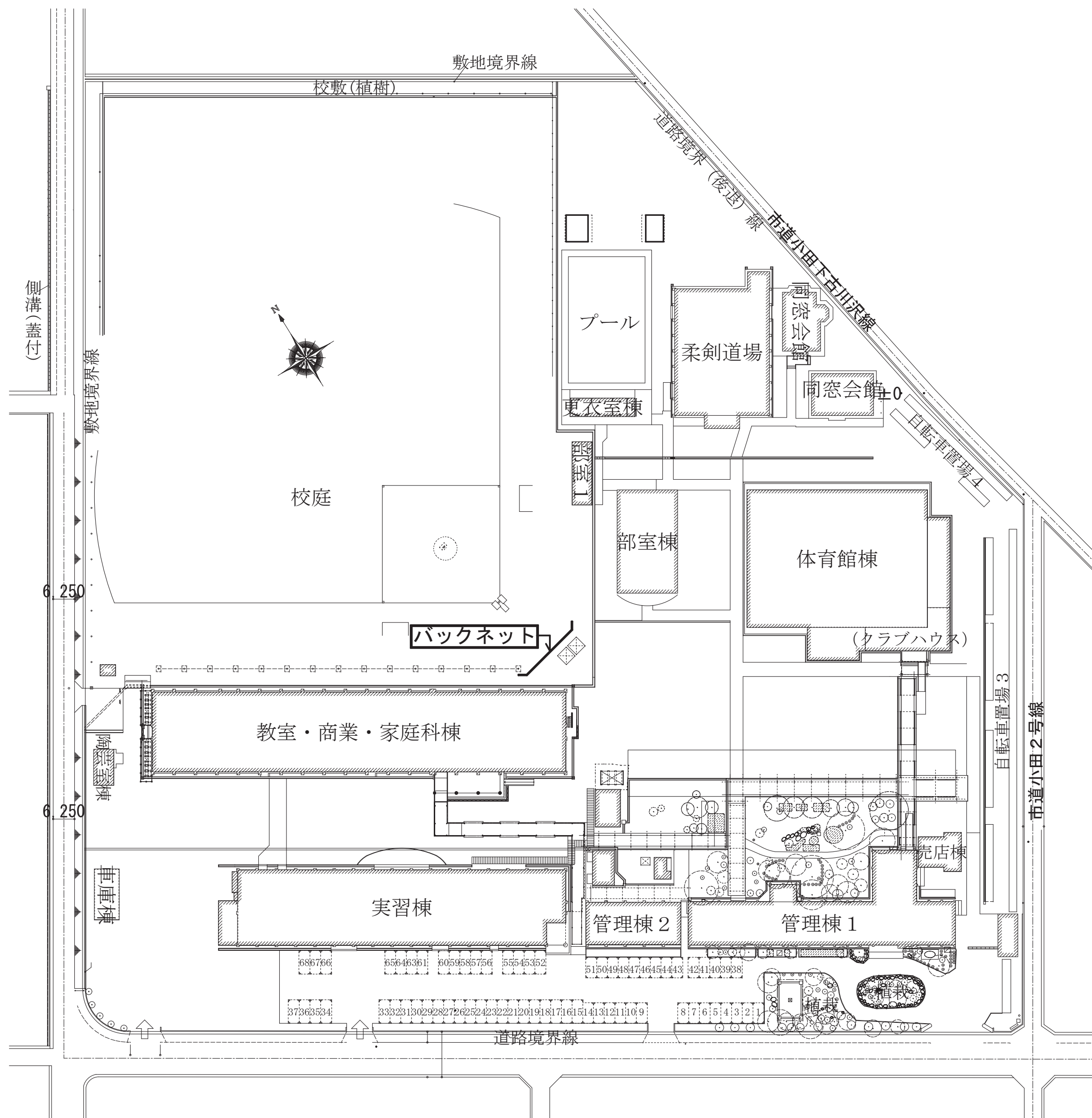
D

C

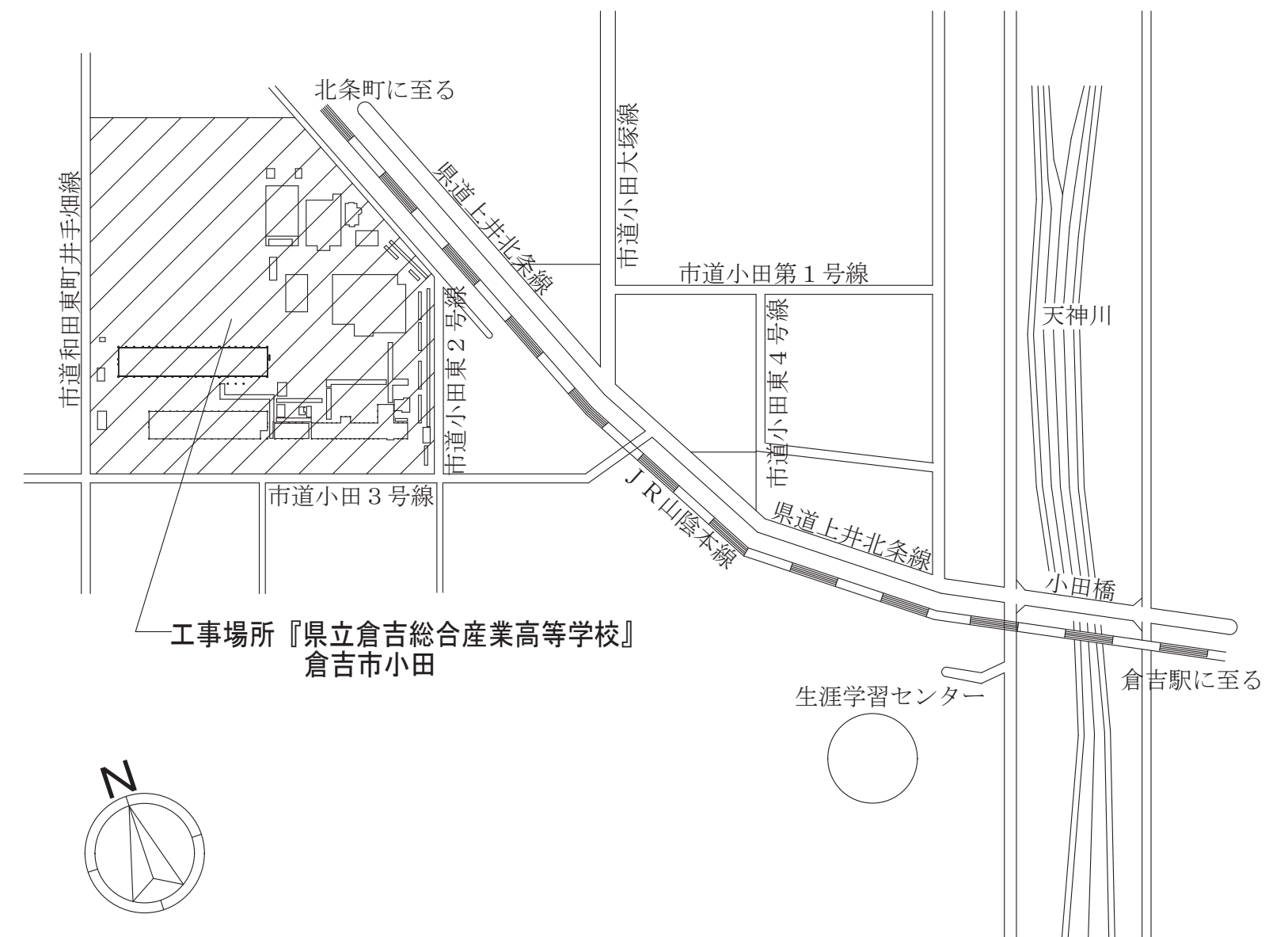
NO

A-03

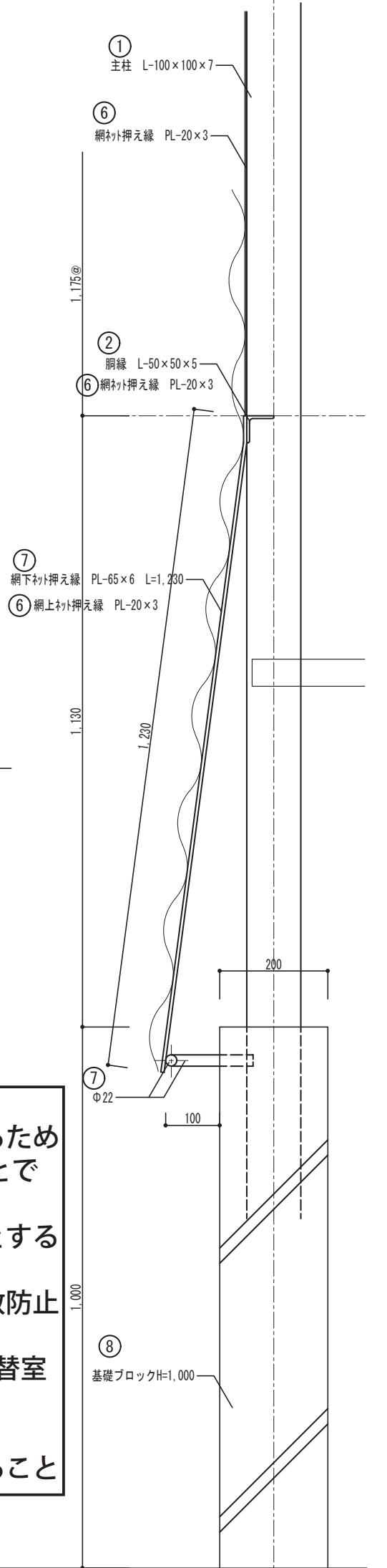
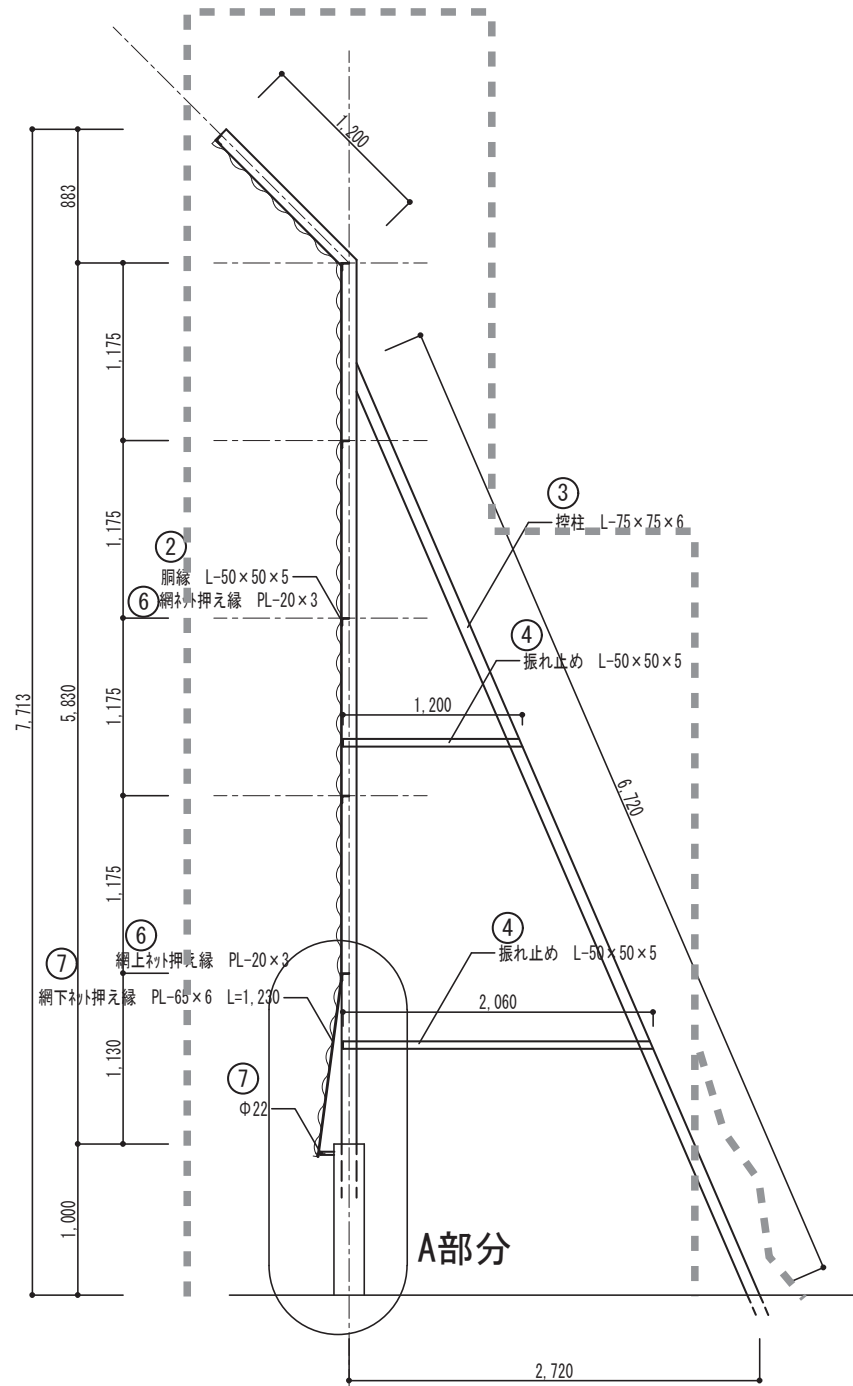
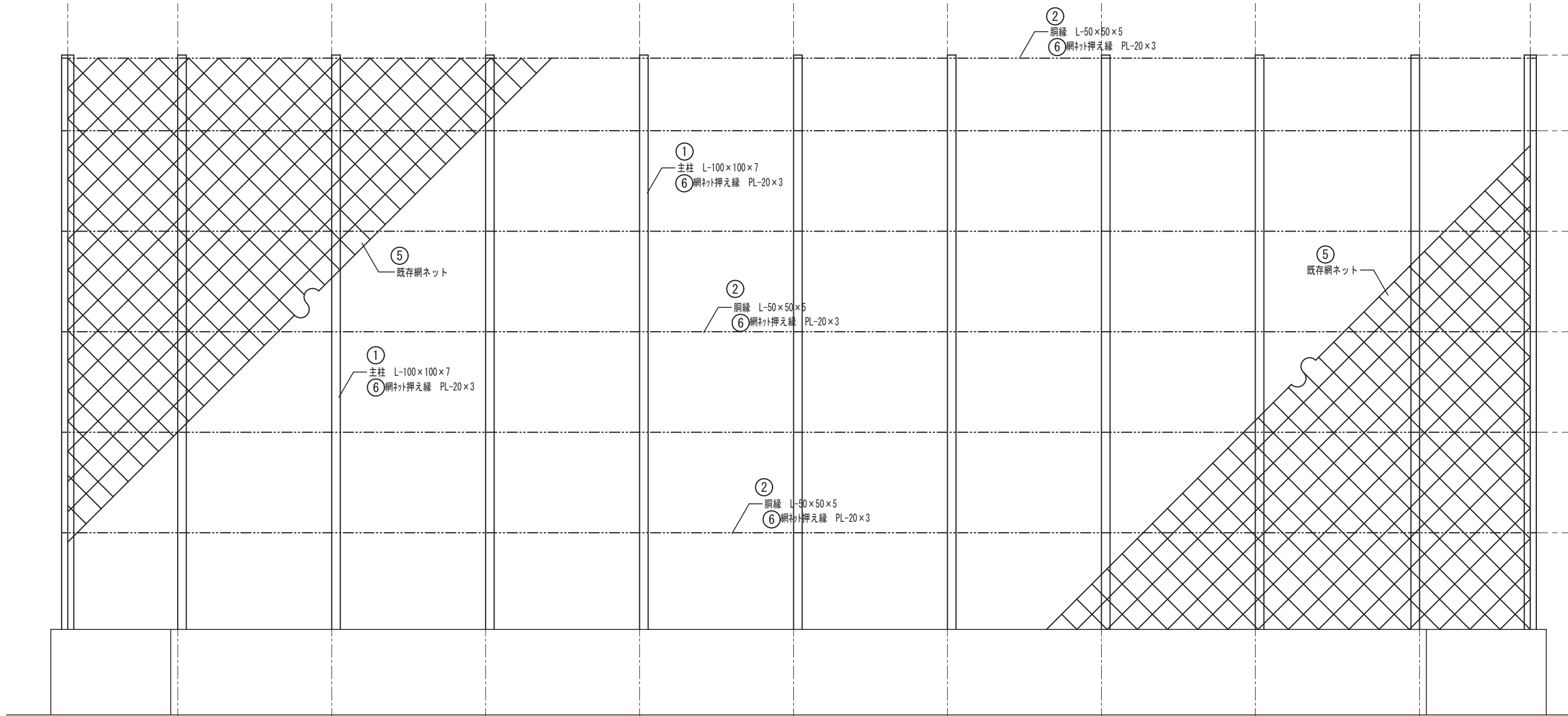
鳥取県
令和8年度
中部環境建築局



配置図 S=1/1000

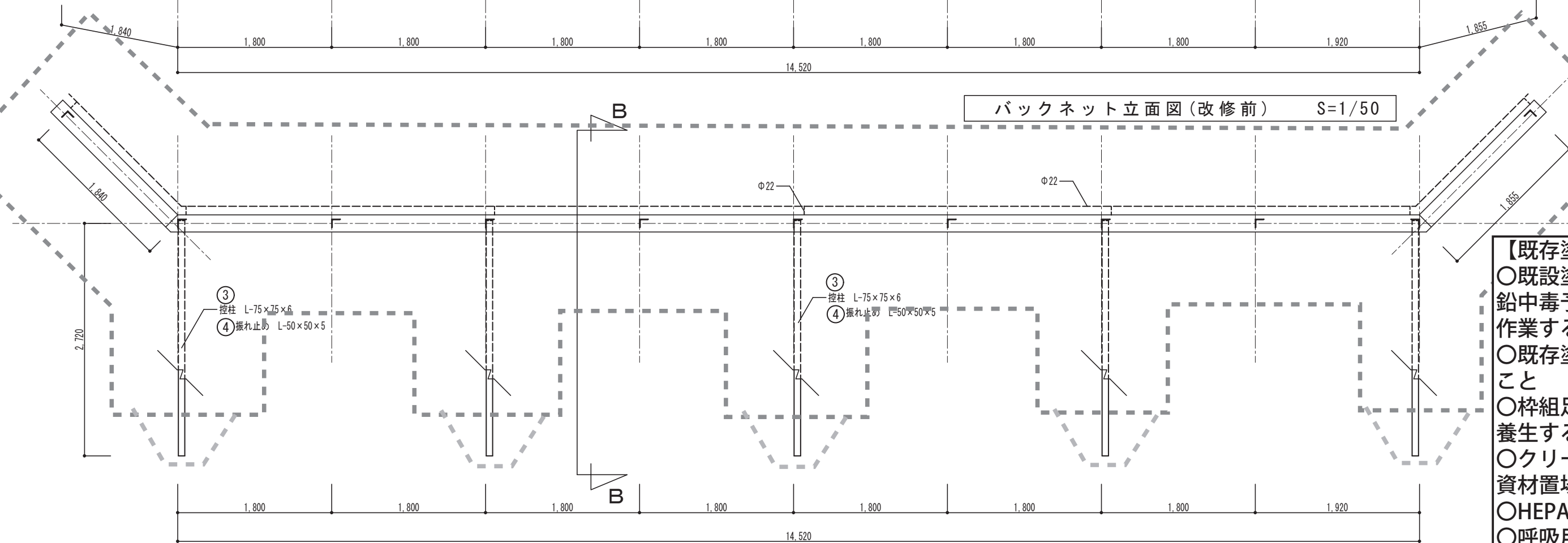


付近見取図



バックネット立面図(改修前) S=1/50

(B～B)バックネット断面図(改修前) S=1/50



バックネット平面図(改修前) S=1/50

【既存塗膜除去作業における特記事項】
○既設塗膜には鉛を含有した錆止ペイントが使用されているため鉛中毒予防規則に則り鉛作業主任者を選任しその管理のもとで作業すること
○既存塗膜のケレンは剥離剤等を使用した湿式による除去とすること
○枠組足場及び養生シート等によりバックネット全面を飛散防止養生すること
○クリーンルーム(W1500xL4500xH2000程度)を設置し、着替室 資材置場、休憩室の3室に区画すること。
○HEPAフィルタ付き負圧除塵装置を設置すること。
○呼吸用保護具及びフィルタ、保護手袋、保護衣を着用すること

番号	改修部位	改修前	
①	主柱	鉄骨 L-100×100×7 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	塗装改修
②	胴縁	鉄骨 L-50×50×5 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	塗装改修
③	控柱	鉄骨 L-75×75×6 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	塗装改修
④	振れ止め	鉄骨 L-50×50×5 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	塗装改修
⑤	網ネット	既存ネット老朽化(破損・錆)	取替改修
⑥	網わたり押え縁	鉄骨 PL-20×3 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	(取外,再取付,塗装改修)
⑦	下部張出部分	鉄骨 PL-65×6 (Φ22) 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)	塗装改修
⑧	基礎部分	ブロック (H1,200×W1,800)	既存のまま

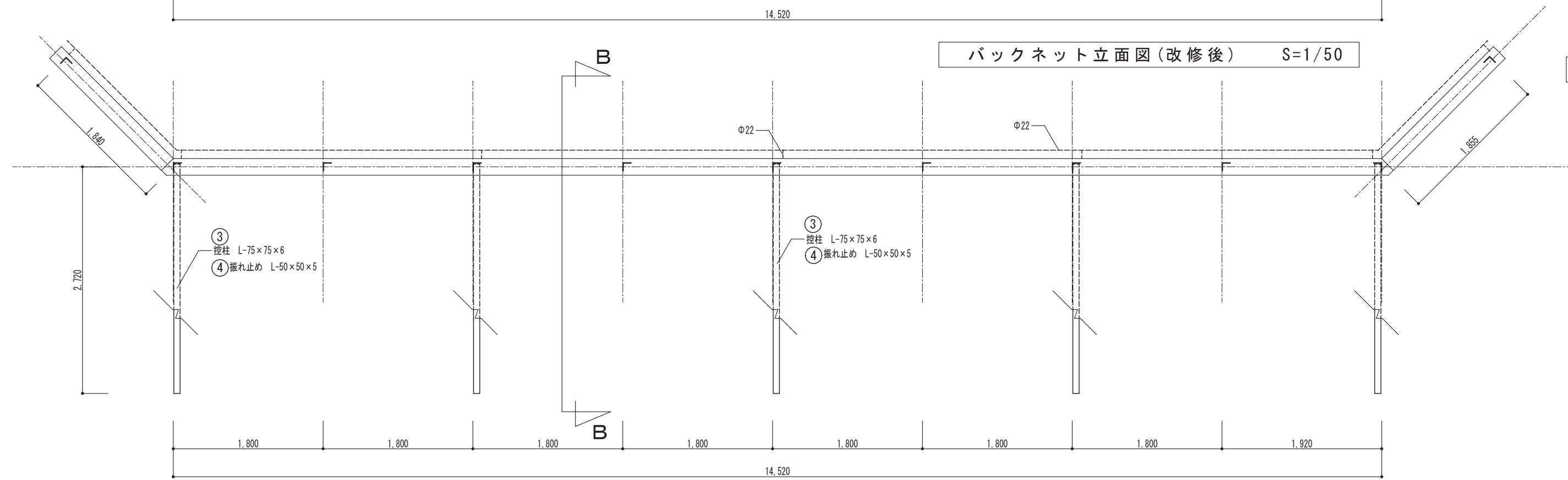
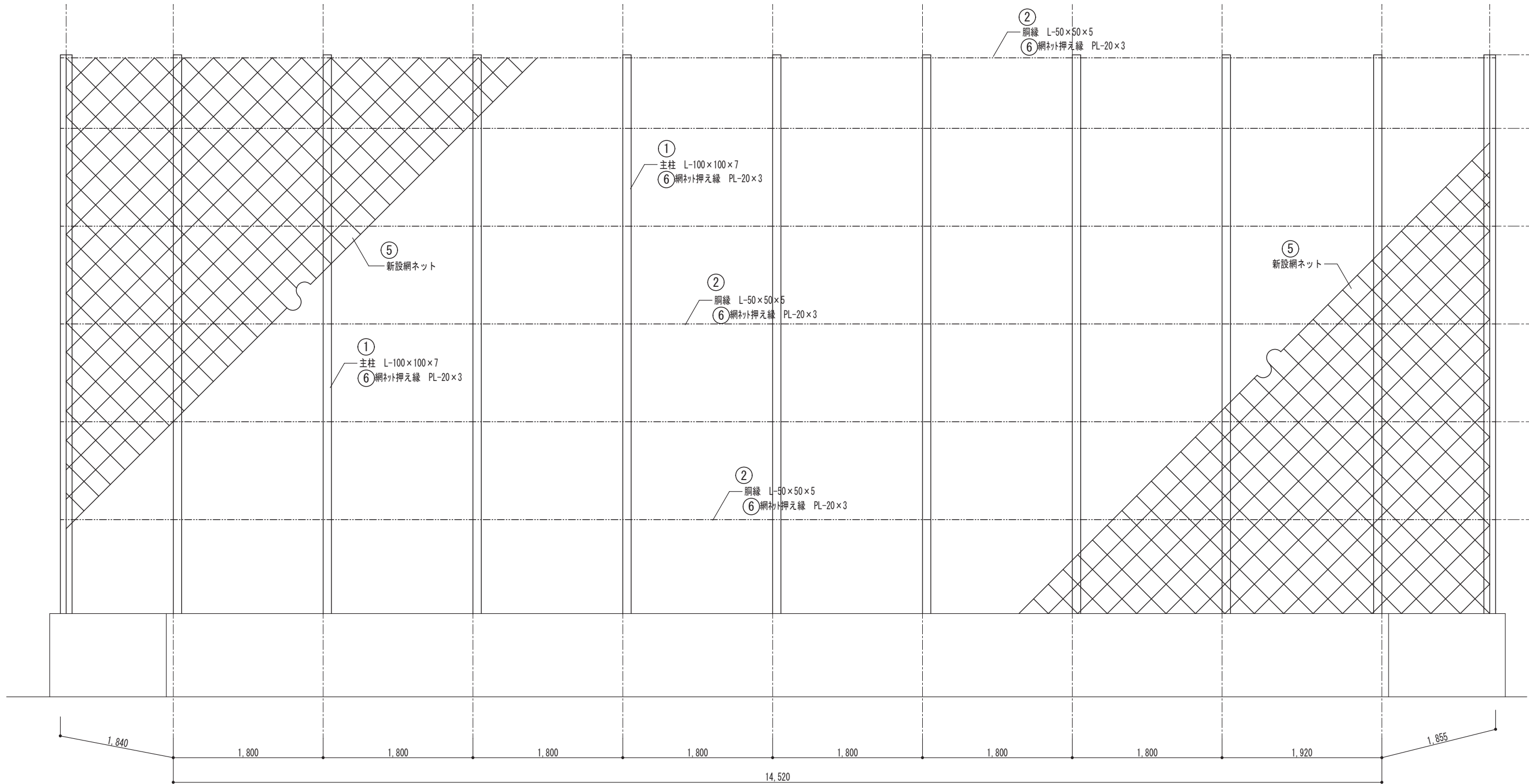
：飛散防止養生範囲(参考)

鳥取県

令和8年度

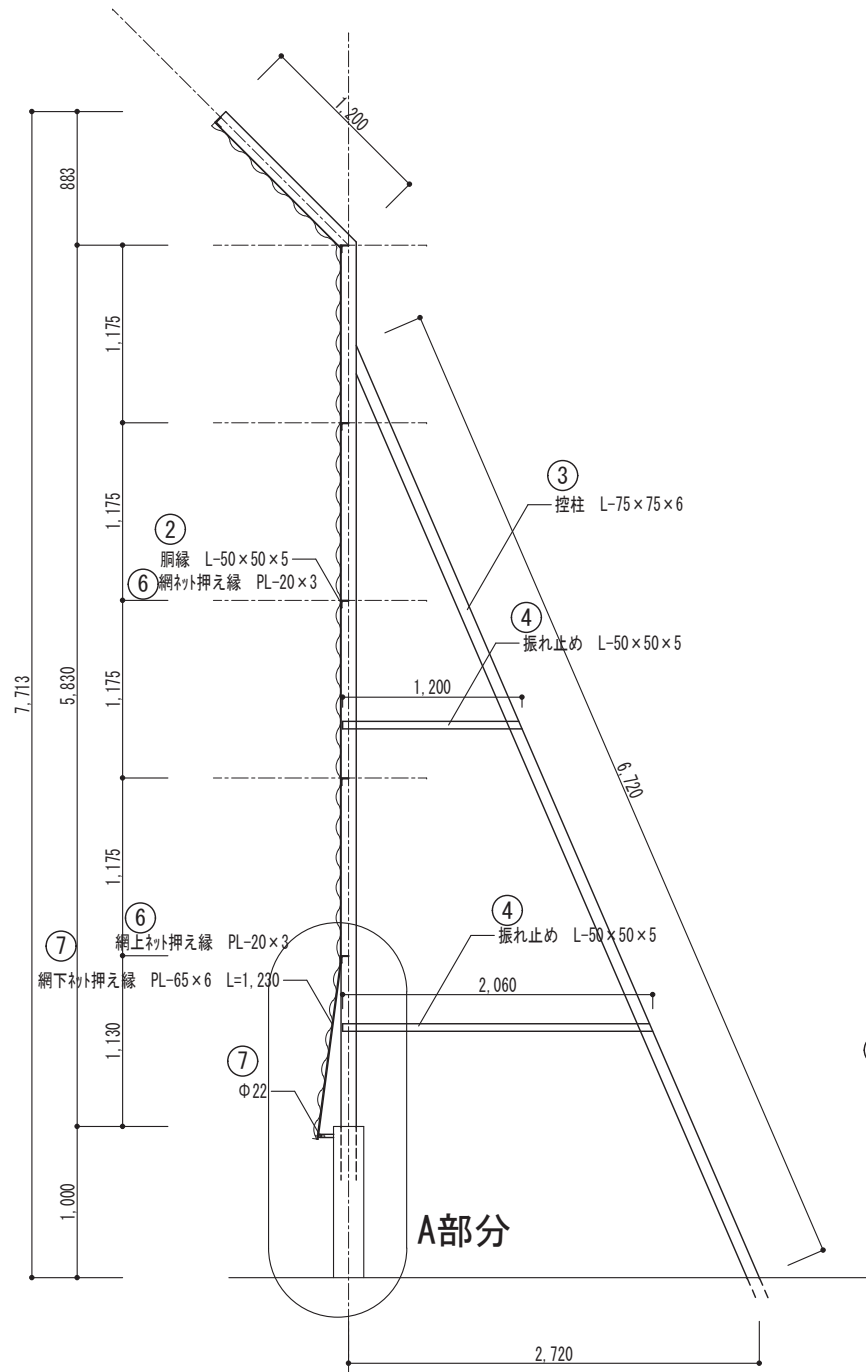
中部環境建築局

(A部分)バックネット詳細図(改修前) S=1/10

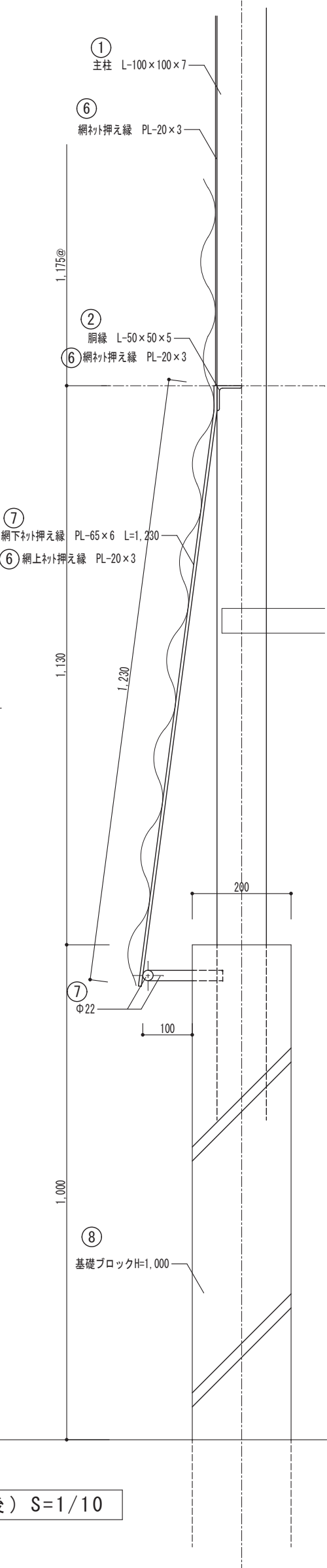


番号	改修部位	改修後	改修前
①	主柱	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 L-100×100×7 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
②	網縁	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 L-50×50×5 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
③	控柱	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 L-75×75×6 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
④	振れ止め	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 L-50×50×5 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
⑤	網ネット	既存ネット撤去後 新設フェンス用ネット(Φ3.2×50mm目)亜鉛メッキ(グリーン塗装)	既存ネット老朽化(破損・錆)
⑥	網わたり押え線	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 PL-20×3 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
⑦	下部張出部分	塗膜剥離剤添布、鉛含有塗装撤去後 DP-1塗装(フッ素仕上) 錆止共・中・上塗り	鉄骨 PL-65×6 (Φ22) 錆及び塗装剥がれ(鉛含有)
⑧	基礎部分	既存のまま	ブロック(H1,200×W1,800)

バックネット平面図(改修後) S=1/50



(B～B)バックネット断面図(改修後) S=1/50



(A部分)バックネット詳細図(改修後) S=1/10

